

令和7年6月 教育委員会定例会議事録

1. 日 時 令和7年6月30日（月） 午後2時00分 開会
午後3時20分 閉会
2. 件 名 河南町教育委員会定例会
3. 開催場所 河南町役場 庁舎4階 大会議室北
4. 出席委員 教 育 長 中川 修
教育長職務代理者 西川 幹雄
委 員 藤原 充
委 員 高井 美恵子
委 員 杉田 みはる
5. 事務局職員 教・育部長 和田 信一
教・育部理事兼指導主事 城者 貴典
教・育部副理事兼指導主事 柏木 俊介
教育課長 藤井 康裕
教・育部副理事兼こども1ばん課長 渡辺 恵子
生涯まなぶ課長 木矢 哲也
給食センター所長 浅井 明郎

(審議内容)

<p>教育長</p>	<p>この時期になりますと、小中学校は、1学期があと3週間ほどになります。こども園は、保育園部については休みがないのですが、本格的な夏を前に、園でできること、小中学校でできることをタイミング逃さずにやるということはもう毎年のことですが、大事であると思っております。</p> <p>それでは、令和7年6月の教育委員会定例会を開催いたします。はじめに、本日の定例会への傍聴につきましてその申し出はございません。そのことを報告いたします。</p> <p>次に本日の出席者は5名です。定足数を満たしておりますことをご報告いたします。</p> <p>次に会議録署名委員は河南町教育委員会会議規則第17条の規定により、藤原委員に決定してよろしいでしょうか。</p>
<p>全員</p>	<p>異議なし</p>
<p>教育長</p>	<p>ご異議ないようですので、会議録署名委員は藤原委員に決定いたしました。次に諸報告、その他に進めさせていただきます。</p> <p>まず「(1) 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価に係る教育評価員について」、事務局の説明を求めます。</p>

事務局	「(1) 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価に係る教育評価員について」、資料に基づき説明。
教育長	この件について何かご質問等ございませんか。 無いようですので、次に「(2) 第28回ぷくぷくサンデーコンサートについて」、事務局の説明を求めます。
事務局	「(2) 第28回ぷくぷくサンデーコンサートについて」、資料に基づき説明。
教育長	今の件について何かご質問ないですか。無いようですので、次に「(3) 教育委員学校園視察の結果について」、事務局の説明を求めます。
事務局	5月19日に町立中学校、石川こども園、近つ飛鳥小学校、5月29日に中村こども園、かなん桜小学校にご視察いただきました件につき、ご意見等いただけたらと思います。どうぞよろしくお願いたします。
教育長	少し前のことになりますが、いろいろ思い出していただきながら、ここでいろんな情報共有ができたらと思いますがいかがでしょうか。
委員	<p>最初に、中学校で校長先生がいろいろお話されて、非常にいい雰囲気です。学校運営にあたっておられると感じました。校長先生が変われば学校全体の雰囲気が変わると言われています。多分、校長先生も、以前の雰囲気から、自分が来てどのように変わったかというのはわからないと思うのです。でも、私達第三者から見せていただいたら、校長先生の方針をお聞かせいただいで、いい雰囲気です。学校に入らせていただいでよかったというのがまず1つ目。</p> <p>次に、子どもたちの方を見せていただいたら、ちょうど中間テストの振り返りをやっておられて、非常に丁寧に、ただテストするだけじゃなしに、もう一度みんなで振り返って、学力を高めようという取り組みをされているのがいいと思いました。非常にオープンでいい雰囲気です。子どもたちも振り返りをしているなあと。</p> <p>そこで1つ感じたのは、評価には自己評価と他者評価があるのですが、ああいう場面では、他者評価で、君はこんなところを頑張っている、いいところがあるとか、お互いにそういう他者評価を取り入れることによって、友達は僕のことをこういうふうに見てくれているんやとか、或いは自分では気づかなかったところを見つけてくれるんやということで、ポジティブ支援に繋がるようないい雰囲気です。例えば、テスト1つにしても友達に教えてもらおうとか、君はこんなところが得意なんやなあととか、こんなジャンルが強いなあとということ子どもたちの中でお互いに高めていくには、他者評価を充実することがよい。自己評価はわかっているようでわからないのが自分のことであったりする。そういうことがあるので、ああいう場面を見たときに、そういう視点で先生方も</p>

とらえていただいて、いろんな教育活動の場面で子ども同士がお互いに評価して、そのいいところを特に学習活動の中でも広げていくということがとても大事であるというのが、中学校の授業を見せていただいて感じたことなのです。

また、近つ飛鳥小学校に行った時に、校長先生が新しい取り組みをとすることを考えておられて、SE公開授業を12月に予定されている。そういう全体的な大きなことをされるということは、学校の活性化に繋がる。近つ飛鳥小学校も新しい方向で進むという感じを受けました。

委員

私は中学校には行けなかったのですが、中村こども園を視察させていただきました。

教室に入って、0歳児の保育や部屋の環境など、いろんなものを見ながら、先生に、どうですか最近の0歳児は、変わったことありませんかと聞くと、いろんなこととお答えいただきました。

その中で非常に感激したことを皆さんにご紹介したいと思います。

受動的学習、いわゆる先生と生徒というポジションを考えた場合に、ティーチングで先生が一方向的に教えるという指導体制が今は若干変わりつつありますけれども、これからAIがどんどん世の中の仕組みを変える、私たちの仕事を変えるという中で、これからの子どもに、どのような能力が必要かということを実際に考えなければいけないと思います。

その中で、私が一番思うのは、AIといっても機械ですから、機械にやれることは機械に任せると、私たちは何をすればいいかということを考えてときに、子どもたちがこれから学ぶべきことは、まずは、自ら学ぶ、今、アクティブラーニングという言い方をしますけれども、自ら進んで学び取ろうとする能力。それから、好奇心、探求心をしっかり芽生えさせていく。探究心というのは、好奇心から始まって、その物事の本質を見極めたい、見極めたいから、いろんなことを探り出す。この探り出す構造というのが子どもにとって強い能力になってくるわけです。

もうひとつ大切なことは、ゼロから創造して、ものづくりをしていく能力が必要なのです。何もないところから創造してものづくりをしていくことが大切なのです。

0歳児担当の先生はおっしゃいました。0歳児の子どもはまだまだ行動が闊達ではないのだけでも、寝ている子もいれば、勝手に本を読んでいる、積み木を積んでいる、勝手なことをしている子もいる。同じことを繰り返し、繰り返しやっている子どもがいる。子どもというのは、気に入ったこと、楽しいなと思うことは繰り返しやるのですよ。これは、すべての子どもにある能力、繰り返しやって楽しいなと思っていることが、自分の脳の中に、これは楽しい、生涯学び続けるという能力が芽生えていく。そのことを0歳児保育から私たちは心がけています、ということをおっしゃいました。だから、こども園としては、子どもたちが、わくわく感動するような現場づくり。環境づくりをどんどん刺激していきたいです。そのために教育委員会にもご協力をお願いしたいとおっ

<p>教育長</p>	<p>しゃいました。</p> <p>幼児教育は非常に大切だと思うので、子どもたちが感動を忘れない、好奇心がどんどん湧いてくる、そういう環境づくりに徹していただくことが、これからの難しい世の中を生きていくために、子どもたちがみずから学ぶ能力に結びつくのではないかと思います。</p> <p>今、お二人からご意見をいただきました。そこに付け加えるなり、違う視点でも構いません。いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>私はそれぞれの学校で新しく学級がスタートして、結構どのクラスも落ち着いて授業を受けている生徒たちが多かったと思いました。先生方も頑張っていて、クラスづくりを4月5月でやっているのかなって思う反面、授業を垣間見の中で、ポジティブ行動支援というか、声かけがすごく少ないなというのが印象的でした。</p> <p>特に中学校は、厳しい言葉が大分飛び交っていたし、聞いていて違うってなるような、「テストの点数悪いよ。」みたいな声掛けもあったので、それはすごく残念でした。</p> <p>先生方もプラスの声かけをどんなふうに、どんな場面で言ったらいいのかという学ぶ場がなく今まできているという印象があったので、前からもずっと言っているのですが、そういう研修を受ける機会をあげて欲しいと思いました。</p> <p>そうすれば子どもたちももっと穏やかに学習することができるだろうし、自信、自己肯定感がいつも低いつて学力調査のときにも出ていますけど、そういうところで、自己肯定感が上がるような声掛けをやってくれたらいいのになあ。</p> <p>先生方にもものすごく頑張っておられるということを伝えてあげて欲しいと思うし、本当にどちらの校長先生たちも、もう朗らかに、私たちを迎えてくださって、よかったです。ただ去年もテスト返しの日だったので残念です。</p>
<p>事務局</p>	<p>ポジティブ行動支援ですけども、中学校の校長が、もともと小学校籍から中学校の校長になって、そういう言葉かけがものすごく気になっているみたいでして、校内研でポジティブ行動支援の庭山先生を呼びたいという打診がありました。町内の教職員すべて巻き込んで、教育委員会事務局が主催するという形で、学力向上担当者・キャリア教育担当者等研修会として町研修として位置付けて、8月21日に庭山先生に来てもらうことになっています。特にキャリアを問わず、前向きな声掛けについて学ぶ絶好な機会なので来てくださいますと研修依頼もかけております。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>それは全員の教職員の先生が受ける全体研とはまた違うのですか。</p>

事務局	<p>8月に急遽決まった部分があって、実はその翌日も町の悉皆研修が入っているので、一応希望制とはしているのですが、なるべく多くの先生方の参加を声かけしていこうかなと思います。</p>
教育長	<p>中学校の校長から、一人一人の先生たちに対して、たっぷりと時間をとって、今言っているようなことを伝えています。</p> <p>頑張っていることは頑張っているけども、それが違う意味合いで伝わっている部分であるとか、校長が感じた感覚を共有できているという話を聞くので、校長として非常に頑張ってくれているなと思うし、そのことが先生たちにも響いていると思います。</p> <p>他どうですか。</p>
委員	<p>私は両方とも参加させていただいたのですが、こども園と小学校の繋がりというか、つなぎの部分に工夫の余地があるというか、可能性があると感じたのです。</p> <p>こども園は年長さんの様子とかも見せていただいたのですが、すごくもう園児たちみんな生き生きしていて、「できる」という意識がすごく見える。年長やから、一番上やからできるねんというような声も聞こえてきたりしてすごく、嬉しい気持ちで見せていただきました。小学校は現場の先生方が大変な中で一生懸命頑張っておられるのがすごく伝わってきて、どういうスタイルで学校運営をするのが子どもたちにとって一番心地よい形なのかなと気になりました。</p> <p>校長先生の話の中で、6年生が大変だというようなお話も事前に聞いてから教室の方に上がらせていただいて、私たちが見せてもらったときは数学で2クラスを3分割にして少人数でしていたのですけれども、顔つきとか体つきとかも、中学生みたいな感じで、1年生とは全然違うし、小学校の年齢層の広さというのは改めて、低学年と高学年は全然違うなと感じました。決まりきった対応でできるというものじゃないなというのもすごく感じました。</p> <p>1年生の教室も見せていただいたのですが、1年生の担任じゃない先生もいらっしゃったりして、後で聞いたら、1年生の担任の先生以外で、空き時間のある先生は1年生の教室に今入り込みされているというようなお話も伺えて、こども園と大分ギャップがあるのかなというのは感じました。学校が全体で対応しているというのをすごく感じました。</p> <p>例えば、低学年の1時間の授業時間自体を30分にするとか、30人が一斉に同じことをするというのが、現代の子どもたちにとっては私たちの時代とは全然違う負担の大きさというか、実態にそぐわない面はあるのじゃないかなということを、改めて感じることになりました。</p> <p>近つ飛鳥小学校の方も私は見せていただいたので、その対比ということも自分の中で結構ショックでした。私が教室に入ってきていることにも気づいてないくらい授業に集中しているような学級の様子を見てとれて、どこに最適解</p>

	<p>があるのかというのはすごく難しいのですけれども、全体をいっぺんに見せていただくということはすごく意義があるし、せっかく見せていただいたものをどうしていくのが私の仕事なのかというのをすごく悩んだ日になりました。</p>
<p>教育長</p>	<p>皆さんから感じたことを出させていただきました。学校には、我々の方で指導主事を通じて、校内研修などでフィードバックしていきます。</p>
<p>委員</p>	<p>1つよろしいでしょうか。前回も出ました先生方の働き方改革問題について、問題提起というか、今の状態のままでは、文科省が考えるような形をしても、先生方の働き方改革は非常に困難だと思います。17時に先生が一斉に帰るような状況は絶対無理です。なぜかと考えました。</p> <p>今回の視察でこういうことに気づいたのですよ。欧米は、学校というのは、本当に教科だけを学べる場ですよ。先生方はそのプロフェッショナルなのです。日本というのはそうじゃないですよ。学校現場というのは、先生方は教科も教えながら、ひとくくりすれば、人間鍛錬の場ですよ。だから、登下校中の安全の見回りをしたり、放課後のクラブ活動の顧問をしたり、家庭の悩みがあったら先生は走る。自分のプロフェッショナルの教科以外の、そういう生徒の日常のいろんな出来事まで抱えているのですよ。先生の仕事として。日本の教育って、親が本来やるべきことを先生が抱えてしなければいけないという文化が、明治時代からあったのかという非常に大きな疑問が湧きました。いつの頃からか、先生がそうしたことを抱え始めて、夜中まで働いている。</p> <p>知り合いの新任の先生なんて、午前0時帰りですよ。先生というのは確かに科を教えるだけじゃなくて、子どもの見回りとか全部面倒見ている。しかもプロフェッショナルとして対応しないといけない。これは非常に大変なことというよりは、先生に対して過大な要求をしている。なかなか先生に心の余裕ができない、時間の余裕ができない、子どもにもっと寄り添ってあげる時間を取れない。今の状況を考えるとなかなか難しいと思いました。</p>
<p>教育長</p>	<p>今、働き方改革のことに触れていただきましたが、その辺いかがですか。</p>
<p>委員</p>	<p>どのくらいの超過勤務がありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>個人差はありますが、昨年度も月平均あたり40時間を超えている校があります。保護者の方にも知ってもらいたいし、教職員の方も意識して仕事をしたいということで、先日メッセージを出させていただきました。</p>
<p>教育長</p>	<p>学校に配っているね。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。保護者さんにも配っています。</p>

<p>委員</p>	<p>保護者の方も甘えている面があるよね。子どもの姿勢を先生にただしてくれと言う。本来親御さんが教えなきゃいけないこと、生活態度も含めて、それを先生が学校現場でやっていること自体、何か方法を考えないといけない。ベテランの先生はすごく割り切っているのですって。だから、残された新任の先生方だけが取り残されてその先生方が、もうわからない状態のまま、11時12時まで働いてふらふらになって帰るという状態になっているみたいです。その学校の特徴かもしれませんが、その辺のことはどうですか。</p>
<p>教育長</p>	<p>前回のときも、若手の先生を守らないといけない、育成しないといけないという視点の話がありました。学校によって差はあると思います。1つの数字として見るのは平均で見るとは平均は意味があるようなないような部分があるのです。実態は80時間の人もいれば、1桁の人もいる。何で同じ学校に勤めていて仕事に差があるのかは、現場にお勤めの人たちだったら、わからないでもないかもしれませんが、みんな均等に、寸分たがわず平均値でというのは、なかなか難しい部分もある。先生たちがやっている仕事の量を見直す、その1つが、中学校の部活動です。先日も府の高体連の会長、校長会の会長、中体連の会長などが出席する会議に出てきたのですが、先生一人一人の考え方も大きな差があって、もう部活動から身を引きたいという人の割合の方が実は多く、特に若手の人たちの中では圧倒的に多いけれども、まだまだ部活がもうものすごく大事なのだと、そこに力を入れている先生たちもいる。その人たちと考え方が違うわけです。</p> <p>なくしていこうという方向で動いている市町村も全国の中ではある。それでも今までやっていたクラブ活動の意味というものを大事にしながら、それをどれだけ学校で継続していこう、形を変えて移行していこう。今、移行という言葉から展開という言葉に変わりつつある。先生たちがやっていたことをしなくていいと、それこそ誰が言うのかという話になってきますけど、それぞれの自治体の教育長がというのも1つかもしれないし、或いは国全体でというのも1つだろうし、その論議は、こういう場で話をするときには絶対必要だと思います。</p> <p>だから、先生の働き方改革だけじゃなくて、さっきの授業改善のこと、先生の言葉がけ1つのこと、研修ももっとしなければならない、でも時間がかかるわけだから、その時間をするためには何かを削減するということは、間違いなく必要だと思います。</p> <p>ではどうすべきかというのはなかなか難しい部分があるんだけど、様々な思いもあろうかと思いますが、こういった議論は意味のあることだと思います。</p> <p>気になったのは子どもが集中できてないという話。授業のあり方もあるし、先生たちは声かけの仕方がわからないのじゃないか、教えてもらえてないのじゃないか。今までであれば、それは同僚とか、年長者から自然と伝授があった。先輩からいろいろ教えてもらった。それとは別に研修もあったりするのだけど、時代の変遷で少なくなりつつあると感じなくもない。</p> <p>今年の働き方改革の中でも、具体的に進めていきたいという思いがあって、</p>

	<p>まだ段取りもできてないのだけど、例えば、時間外の電話対応とかも多くの市町村で取り組んでいるところでもあるし、留守番電話対応にするのかとか、何時以降は緊急の場合以外は、学校に電話しても受け付けませんよということであるとか、計画的に何かできることがあればやっていきたいと思います。</p>
委員	<p>授業に集中できない子たちがたくさんいる中で、じゃあどんなふうに授業を作るかというのは、学校の課題だと思うし、授業の時間を減らすとかまで一気にはできないでしょうね。</p>
委員	<p>でも、本当に現場の先生方は、もう多分どの方もすごい技術を持っているし、尽力していることはものすごく伝わるのです。</p>
委員	<p>学校訪問をさせていただくということは、すごいと思うのですよ。我々も教育委員という立場だから学校も受けてくれているのかもしれませんが、第三者の方に来られるということは、学校の状態をさらけ出すことになるのだから、敬意を表するに値すると思うのですよ。</p> <p>次から学校訪問の視点を決めてから臨んではどうか。今回はこういう視点で授業を見ていただきませんかとか、先生方の声かけがどうなのかとか、或いは、授業の中で子どもたちの様子を見てあげてくださいとか、或いは今こういう取り組みをされていて、といった視点があればよい。</p> <p>次に訪問させていただくときは、視点を明記してもらったらありがたい。学校からもこんな点を見てくださいますということがあればいい。</p> <p>もう1つ、学校も、実はできることとできないことがある。できないことはどうするかって考えたときに、例えば子どもが帰ってから地域でできることは、ある程度地域にお願いして、子どもの様子を見ていただくとかです。登下校なんかでも、学校がすべてできるわけじゃないので、それを保護者にもきちっとお話をしないとイケない。学校もできないことが実はありますので、できないことのいくらかは保護者の方にも協力いただいて、子どもの様子を見ていただくことが必要。何でもかんでも学校は受け入れるような雰囲気醸し出しているところがあるのではないかな。</p> <p>僕の経験なのですが、支援を要するお子さんで、過度な要求をされてこられるとき時でも、そこまではやりますけども、この部分はできないから、何とか協力をお願いしますよ、とはっきり言った方がいい。</p> <p>学校も協力していくということで、保護者といい連携を保っていきながら、その中で、保護者の方にもお願いするところはしっかりお願いするということを打ち出していかないといけない。働き方改革の中でも、そういうことは視点に入れられないといけない。</p>
教育長	<p>今おっしゃっていただいたように、学校だけでという時代ではなかなか難しくなってきたので、今、教育委員会でも進めたいなと思っている考え方が、</p>

	<p>コミュニティスクールというものです。</p> <p>KANAN BEAM でめざすところは、子どもたちのためにという思いを地域や保護者などと共有して、それぞれ役割を担っていただく、そういう地域を含めたコミュニティスクールをめざしていこうというところで、今年から近つ飛鳥小学校で、来年からさくら小学校で、という計画を立てながら今やっているところ</p> <p>です。</p> <p>地域の思い、教育委員会の思い、学校の思い、この辺について、まだまだ連携できていない部分も正直あると思います。時間をかけながら、めざすところへ繋がっていきたいと考えているところです。</p> <p>次の視点ということをおっしゃっていただいたので、次の視察では、こういう視点で見てもみましようかという我々の共有、それを学校も事前に共有することができればと思います。</p>
委員	<p>春はスタートの様子や学校設備を見て、秋は授業を一本見る中でどんなところを大切にしているのか、学力向上に向けてどう取り組んでいるかというところを見たいと思います。</p>
教育長	<p>行く前にまた共有しましょう。</p>
委員	<p>視点を共有して、皆さんと同じ視点で見られるように、この機会に臨むというのは必要なことなのだと思います。次に行くときは、そういう視点で見られるように、勉強もしないといけないなと思いました。</p>
委員	<p>1つだけかまいませんか。ニュースを見ていたら、日本のG I G Aスクール構想で、タブレットがもう9割の学校で子どもたちに配布されている。世界の中でもトップレベルに入ってきている。ただ、その裏で何が起きているかということについて問題点を出しておられたのです。</p> <p>子どもたちは授業中にタブレットを使って、100字以内で感想文を書いて、それを子どもたち全員で今タブレットで友達がどんなことを書いているかというのを見ることができて、非常に効率化が進んできて、学校の学習が非常に進んできているという報告があって、そこまではよかったです。</p> <p>問題点は、書く力がなくなってきたということ。タブレットは全部ひらがなで打って変換している。小学3年生の文章が紹介されていて、漢字で書けるところもあるのに全部ひらがなで書いている。書く力とか語彙力、特に考える力も弱くなっている。</p> <p>中には、もうパソコンに聞けば何でも教えてくれるから自分で考えることはしなくてもいいというような子どもたちも出てきている。</p> <p>それを防ぐために、東京のある小学校では視写をしている。物語文で素晴らしい表現のところは、子どもたちに丁寧に視写をさせて、文章の言葉の素晴らしいところを味わえるようにするというような視写に取り組み始めている。</p>

昔、効果と効率ということで、議論したことがあって、教育には効果と効率、両方がとても大事だろうと。一番わかりやすいのが、エレベーターとエスカレーターです。どちらが効果でどちらが効率だと思いますか。エレベーターが効果。エスカレーターは効率。エスカレーターはたくさんの人を運ぶのに非常に効率がいい。でもエレベーターは、例えば病院なんかでベッドや車椅子の人を乗せることができる。物事には効率を要求される部分と、効果を要求される部分がある。

今回のニュースを見て、効率を追い求めるがことによって、効果が薄れてきているのではないかと、確かに効率が進めば便利がよくなるのですが、その代わりに効果が減ってきているのではないかと思います。

効率にばかり目がいったときに失うものが出てきているのではないかと。書く力が、考える力が弱ってきた。すぐにパソコンとかスマホに頼ってしまう。前にこの場で、スマホは脳が疲れないという話があった。確かにそういうことかなあと。効率を重視するのか、効果を重視するのかということを、教育でも考えていかないといけない。

委員

私の考えでは、効果を重要視して動いています。効果より効率を追求すると、確かにその省力化、省エネ、ランニングコストも、経費面では低くなっていくのですよ。だけど、単純作業になってくる分、頭が考えないのですよ。自覚して判断して行動する力、PDCAチェック。これをできないと営業はできないのですよ。だから、ビジネスの社会では、両方ともしないといけないけど、私の考えは効果。効果を重点に動いています。

委員

今日のニュースを見ていて、効率を求めるがゆえに、効果が薄れてきているような感じを受けたので、もう一度原点に帰って、これで効果が上がるのかな、子どもたちのためになるのかなというようにところに視点をおくことも大事だと思います。

委員

本当におっしゃっていることは今の現実ですよ。キーボード1つ叩くだけですべての回答が出ますよ。キーボードを叩くのは、単純作業です。頭は何にも考えてないですよ。だから、頭脳を働かせるという面は、どんどん少なくなっているのですよ。

昔は漢和辞典でも国語辞典でも英単語でも、自分でめくって赤い線を引っ張って、それを覚えるために書いて、写して覚えていきましたよ。そうすると、頭の細胞が動いています。DXが進んだら、アナログを責めていますけど、おかしいと思います。バランスをどうとるかだと思います。

例えばワードで変換して、仕事で打っている人って、漢字をどんどん忘れていくでしょう。

委員

それと辞書を使わなくなってきた。国語辞典でも何でも、視覚でとらえたら、

	<p>隣の言葉も一緒に覚えていくというようなこともある。そういうことも振り返って見ないといけない。</p>
<p>委員</p>	<p>こういうデジタルの時代に、どうやって子どもがのっていか、時代に合わせてどう変化していくかというのは、すごく興味深い。ChatGPTを使って論文を書いたり、逆に使っていいって言われたりして。そこで自分の個性をどう出すかというのは、また、そこから子どもたちが考えていくところ。古いものもいいけれど、時代に合わせて変わっていく力というのも、両方とも大事にしたらいいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>視写とか音読がChatGPTと会話をするのと何が違うかというのと、体を動かすということだと思います。体と頭と両方使う時間というのを、学校の活動の中に入れていく。頭ばかり使って、しんどくなる子どもを結構見ているので、体をもっと使う活動というのを意識してみるといいのかなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>ある社員の話です。空気が読めない。コミュニケーション能力が欠落しているのですよ。会話しても、一言二言出したら次の言葉が繋がらない。</p> <p>語彙力という言葉が出ましたけども、日本語の素晴らしいところは、1つの言葉でも、中に感情があるのですよ。そのいろんな感情を読み解ける能力が今の子どもたちは本当に欠落していますよ。世の中に出ても、人間関係をよくするコミュニケーションは大切です。</p> <p>相手の感情を読み解く力、相手が何を考えているか、どう思っているかを読み解く力をしっかりつけましょうということで、毎月社内定例会を30分やるのですが、その30分のうち、50%はそういうトレーニングを社員にさせています。EQという言葉があります。反対の言葉のIQ、すなわち知能指数は遺伝的な要素があります。だけど、EQというのは、全く遺伝が関係ありません。トレーニングして鍛えたら、相手の感情を読み解く力、相手の気持ちをを読み解く力、空気を読んで、どういう発言をすれば相手が喜んでくれるか、相手が褒めて欲しいなと思うときに、どの程度ほめて欲しいか、そういったことを読み取る力、読み解く力がついてきて、非常に信頼関係が密になって、チームが強くなる。これは理屈としてでき上がっています。</p> <p>アメリカの社会ではこのEQというのは、ビジネスの社会では当たり前の世界になっています。河南町の教育委員会で、子どもたちに、相手の感情・気持ちをを読み解く力、相手に優しく寄り添う力というのをどう育てたらいいかということもお願いしたい。そういうことを、1つテーマを決めてお話し合いするという場も作っていただけたらありがたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい。去年からで言うと、言葉を変えると認知能力と非認知能力という部分ですね。その辺のことも大事だと思っています。まさにそういうことをやろうとしています。</p>

他、よろしいでしょうか。

以上をもちまして本日の議事日程はすべて議了いたしました。これをもちまして6月の教育委員会定例会を閉会いたします。

次回開催日は7月29日火曜日の13時からとなっております。

8月定例会は、令和7年8月27日水曜日の10時から開催いたします。本日はおつかれさまでした。

令和 年 月 日

教育長名

署名委員名